

## 第1セッション

### 都市の魅力向上のための戦略

その都市の魅力のかどうかは、その都市が特色ある役割という意義 (signature) を持っているかどうか、ということであり、世界的な都市は良い意味でそれを持っていなければならない。これはすぐに実現することはむずかしいかもしれないが、様々な価値が尊重される場所であることが、都市の魅力であると考ええる。



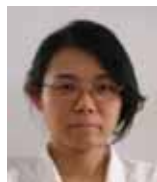
アダム・オストリー Adam Ostry  
カナダ連邦政府（枢密院）都市担当局長



西村 幸夫 Yukio Nishimura  
東京大学大学院工学系研究科教授



リー・キューバン Kyu-Bang Lee  
韓国国土研究院院長



岡部 明子 Akiko Okabe  
千葉大学工学部助教授、建築家



アルフォンソ・マルティネス・セアラ Alfonso Martínez Cearra  
ビルバオ・メトロポリ30代表(スペイン)



ペーテル・セグヴァーリ Péter Szegvári  
ハンガリー総理府地域開発庁長官・政務次官

## オストリー議長 ~カナダの都市政策についての課題~

カナダでは約80%の人口が都市に住んでおり、都市化が進んでいるが偏っている。カルガリー、トロント、バンクーバー、モントリオールが代表的な都市であるが、他国の都市と競争し合う中で、どのようにして人々の生活の質を高めていくかが課題である。



連邦政府も州と手を組んで、都市の問題に関わって新しい都市政策を行おうとしているが、国際的な競争力などの経済的な持続可能性、健康・清潔・環境にやさしいという環境的な持続可能性、包括的、安全、あらゆる人々に機会が与えられるという社会的な持続可能性、最も重要であるが重視されていない、創造的で帰属性のある文化的な持続可能性が課題である。

これらを政策的に行うためには、安定した、予測可能な、長期にわたる財源、政府と都市が一緒にやろうというシステムを整えること、たとえば連邦政策とプログラム、効果的な行政、組織の仕組み、さらに、がバランスをとりながら地方自治の中で推進するための調整機能が必要である。

文化スペースカナダのプログラムでは歴史的遺産、施設を守るために、1億カナダドルを投資しようとしている。文化首都プログラムでは、都市に住む人々に多様な文化にふれてもらうとともに移民の歴史を伝えていくこと、さらに補助金を民間セクターに与えて、たとえばヨーロッパからの移民が多いハリファックでは、移民を受け入れるようにしている。

## セアラ氏 ~ビルバオの再生~

ビルバオでは、20年前はクレーンなどが置かれていた場所に、現在では河川が再生され椰子の木が植えられている。魅力ある街であるためには、夢を実現することが必要であり、夢を実現するにはその場所が必要である。ビルバオは、グッテンハイム美術館の整備など文化戦略によって、変化を先取りするような街になってきた。

都市の再生には、その都市が仕事を提供してくれるかどうかのポイントであり、雇用ではなく仕事の創出を求めるべきである。また、コミュニティとしての価値観を持ち、開放された都市であること、そうした個性を持つことや多様性を認めることが大切である。



### 岡部氏 ~都市戦略のあり方 競争と結束の相乗効果~

金沢市では、文化的資源に恵まれているが、文化を生かした魅力的な都市づくりが行われている。たとえば、「21世紀美術館」では、街を散歩する感覚で一流の美術が楽しめる。

しかし、ここでは、ビルバオのグッゲンハイム美術館を再現することはできない。では、「21世紀美術館」は失敗かということ、普通の市民が自分の生活の豊かさを高めることができたかと評価することができ、経済的効果以上のものがあったと考える。

東京の例では、六本木では、短期的に経済的効果をあげる緊急整備地域により、富裕層をターゲットにした都市づくりが進められた。六本木タワーは、文化が重要視されており、富裕層を集めるマグネットの役目を果たしており、民間のイニシアチブを利用することに成功した。しかし、稼げる所で稼いでもらうという一握りの富裕層にだけ焦点を当てて良いのかと感じる。



一方、秋葉原は漫画、アニメが発生した原点であるおたく文化の拠点となっている。これは青少年犯罪など、社会を壊す力になりかねない。しかし、アニメを文化産業にしようとしたということで、六本木とは対照的である。おたく文化の力を生かすことによって、多様な社会的クラスが抱え込めるのではないだろうか。

日本の都市の特徴としては、社会的結束が綻んできていること、経済競争力は向上していることであり、本来の戦略的アプローチは、社会的結束と経

済競争力が相乗効果を発揮することであると考える。

### 西村氏 ~パブリックスペース創出の事例~

日本の都市にはパブリックスペースが欠けているため、視覚的な美しさが諸外国に通じていない。では、どのようにパブリックスペースを生み出していくかについて、事例から見てみる。

金沢市は400年の歴史を持つ運河の街であり、水辺を保全していこうという動きが出てきた。川に違法な形で橋のようにふたが架けられたが、水辺が40年間の内に復元されてきた。この景観プロジェクトが行われたことによって、裏道にも訪問客が増えた。

飛騨・古川の街の景観の変化は、長いプロセスをかけて地元の人が参画してパブリックスペースを改善してきたものであり、民間からの寄付によって行われたプロジェクトである。それによって街の誇りを植え付けることができたのであるが、この

ような戦略をとることによって、アジアの国々も景観の改善が可能になるのではないかと考える。

神奈川県小平市の平塚市は、もともとは工業都市であったが、改善を加えていくことによって景観の質が変わった。土地所有者に理解があったので、景観を改善することができた。



### キューバン氏 ~韓国の都市の魅力と戦略~

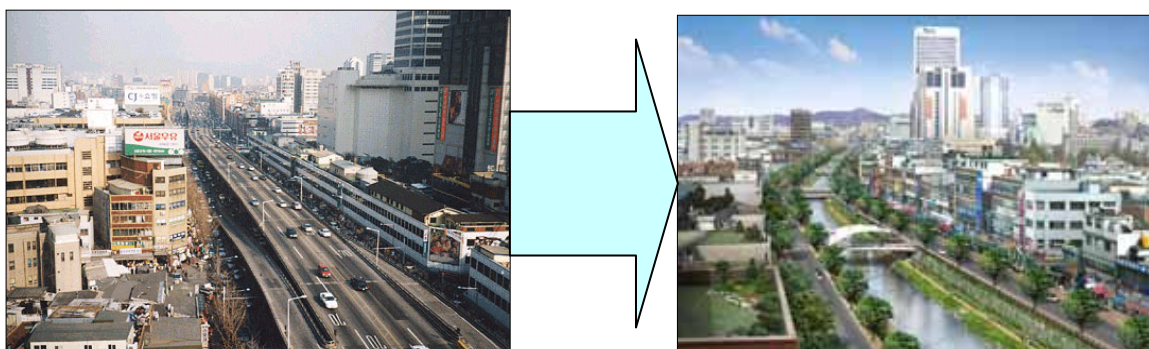
1990年代には韓国の都市計画に大きな変化があり、首長公選制により知事などが市民の要求に敏感になったため、都市間の競争が激しくなった。

政府はより良い道路や輸送システムを作ることはしたが、コミュニティにまでは目を向けてこなかった。現在では、自分たちの都市をより住みやすくし、市の魅力を高めようとしている。

ソウルは、文化遺産が豊富であること、郊外に目が向けられていることから、中心部の再興が必要になってきた。チョンジエ河の修復プロジェクトでは、幹



線道路の下に埋められてしまった河を生き返らせたのであるが、これは学者などによって歴史的過去を回復しようとするものである。



プサンは人口 370 万人の韓国第 2 番目の都市であるが、80 年代、90 年代に経済の再生に失敗した。しかし、市がサポートした国際映画祭の成功によって都市の魅力、イメージアップを行っている。

これらの成功の要因は、市当局の強いサポート、イニシアチブがあったこと、市の競争力をアップさせようという文化的戦略があったことである。ただし、こうしたことを真似するだけでは失敗に終わってしまう。地域によって持っているリソースが違うため、上部だけ真似するだけでは成功しない。

必要なことは、市のサポートと持続可能な戦略であり、都市固有のリソースを活かした都市ごとの戦略が必要である。

### **セグヴァーリ氏 ~都市開発には様々な要素、文化が必要~**

都市開発には政治的アプローチだけでは十分でなく、社会的に人々を組み込んでパートナーシップを作っていくことが大切である。新しい要素として、文化への投資を挙げることができ、これは間接的に経済に影響を与える。

工場の跡地への投資では雇用創出ができ、周辺地域への文化投資も都市の再生に効果がある。たとえば、ミレニアムシティセンターは今まで使われてこなかった都市の周辺地域であるが、場所が良好なこともあり効果が機能となっている。

文化的イベントを利用することによって、住民をうまく動員し結束を促すとともに、文化を観光促進のために使うことが可能である。たとえば、ブダペストの場合、スプリングフェスティバルなどを開催している。重要なのはイメージ、ブランド作りである。ブダペストはイメージ戦略がやや欠けている。

文化産業が市場に与える効果は雇用の増加であり、これを狙って 2010 年にブダペストは欧州文化首都として催しを開催することを目指している。

**= ディスカッション =**

## 岡部氏

何のために都市において人材を引き付けるかは、その結果、市民社会がどう反応するかということである。市民が参加していくこと、関わろうとする人が多くなっていくことが成功と失敗の分かれ道であると思う。



## セグヴァーリ氏

都市の魅力づくりには、いろいろな価値が様々な形で結実していくことが必要である。人的資源、補助金の使い方などがバランスをとっていくことが重要であり、今後、ハンガリーでは地域ごとの戦略を作っていきたい。

## 西村氏

美化のみが都市の魅力だとは思わない。最終的な目的である都市の魅力づくりは、住みやすさの究極のものであると考える。

## ペッツイーニ氏 (OECD 事務局)

都市に対する評価が必要であり、プロジェクトを行うなら集客数はどうか、あるいは都市の混雑について押さえる必要がある。

## セグヴァーリ氏

生活の質について、スラムに住む人々を住みやすくする必要がある。このため、民間セクターの投資が重要である。経済的なアプローチと、環境的アプローチのバランスをとるのは難しいが、都市の競争と共存が必要であり、ハンガリー周辺地域とも協力的な競争がこれからも大切であると考えている。

## キューバン氏

最適な解決は収入を増やすことか利益を増やすことなのか、都市の発展段階でもこと。環境とのバランスも必要であり、どのようなターゲットを持ってユニバーサルな戦略や国内戦略かなどの選択肢を検討することが重要である。